福岡市医師連盟常任執行委員会・執行委員会合同会議　会長挨拶

皆様、こんばんは。
福岡市医師連盟委員長の菊池でございます。

本日は、お忙しい中、医連常任執行委員会・執行委員会合同会議にお集まりいただきありがとうございます。また、日頃より医師連盟の活動にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、今回、診療報酬のプラス改定はあったものの、医療機関の経営は依然として厳しく、地域医療をいかに守っていくかが大きな課題となっています。

こうした医療現場の声を政治に届け、具体的な政策につなげていくことが、私たち医師連盟の大切な役割であります。

これまで、自由民主党福岡市議団をはじめ、本連盟が推薦してきた議員の皆様には、地域医療の充実に向けて多大なるご支援をいただいてまいりました。

さて、今回の福岡市長選挙には、現在１４名が立候補を表明しており、選挙の行方は極めて不透明です。場合によっては再選挙となる可能性もあり、私たち医師連盟としても、今後の対応を慎重に判断する必要があります。

ただ、ここで忘れてはならないのは、**私たちの目的は、政治的な対立や勢力争いではなく、福岡市民に安定した医療を提供し続けること**だという点です。

今回の市長選挙も、福岡市の将来を託す、より良い市長を選ぶための大切な機会と考えています。これまでお世話になった議員の皆様との信頼関係を大切にしながら、候補者の政策や地域医療への理解を見極め、医師連盟として適切に対応してまいりたいと考えております。

ご承知のようにこの度、任期満了に伴う福岡市長選が、１１月１日告示、１１月１５日投開票の日程で実施されます。

私たちが最も重視すべきことは、福岡市民に安定した医療を提供し続けること、そして今後も市政と医療界が良好な協力関係を築いていくことであります。医師連盟としては、候補者が地域医療の課題をどれだけ理解し、具体的な政策として私どもの意

見を取り入れていただけるかという点が重要であります。

これまで福岡市医師連盟は、自由民主党福岡市議団をはじめ、推薦議員の皆様と信頼関係を築きながら、地域医療のさまざまな課題に取り組んでまいりました。

今回の候補者選定にあたっては、自民党市議団、鬼木誠衆議院議員、古賀篤衆議院議員から調たかし氏について強い推薦をいただいております。また、日本医師会の松本会長に対しても、自由民主党の国会議員から働きかけがなされています。また、なにより調たかし氏とは、自民党市議団を通じた太いパイプがあり、私どもの政策を遂行するうえでは、大変頼もしい人材であると考えられます。

こうした政治的な経緯や、これまで築いてきた信頼関係は、今回の推薦を協議するうえで重要な判断材料になると考えております。

本日は、先生方から忌憚のないご意見をいただき、医師連盟としての方針を協議してまいりたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。